

もり

環鳥海・未来の森林シンポジウム 2004

参加無料

と き：平成16年1月25日(日)午後1時～5時30分 12:30 受け付け

TEL 0184-33-2315 FAX 0184-33-3536

ところ：西目町町民センター「シーガル」(JR西目駅・西目町役場隣接)

TEL 0184-22-8351 FAX 0184-22-1176

お申し込み/お問い合わせ：由利地域振興局 森づくり推進課・西目町民センター シーガル

【開催テーマ】 森から海へ～生命と地域文化をつなぐ川の力を問い直す

【スケジュール】

13:00～13:10 開会宣言及び来賓あいさつ

第1幕 徳野 貞雄

13:10～14:10 農業・農村の多面的機能をどう事業化するのか

第2幕 内山 節

14:20～15:20 いま川をどう捉えるのか...「水」の思想から「流れ」の思想へ

第3幕 飯島 博

15:30～16:30 水辺の自然再生事業～生物多様性の回復をめざして

最終章

16:30～17:30 三つ巴トーク～シンポジウム参加者全員に発言権があります

閉会宣言

主催 環鳥海・未来の森林プラットフォーム

...共生や循環のシンボルである森林...。一昨年の「環鳥海・21世紀の森林シンポジウム」をきっかけに立ち上がった、このプラットフォームは、森林を切り口に、さまざまな提案をおこないながら、環鳥海地域の民間公益活動団体や個人・企業・行政などが、それぞれが持つ資源や人材、情報、知識等をゆるやかにつないでいくことで、相互補完や機能分担、あるいは新たな結合によって持続可能な社会の再生と共有をめざそうとするネットワーク組織です。 会長 佐々木 紘一(内越土地改良区理事長 本荘市市会議員)

第一幕

基調講演

徳野貞雄 独演会 in 西目

- 農業・農村の多面的機能をどう事業化するのか -



おしゃれで元気な農村(マチ)づくり、農林漁業の多面的機能をどう事業化するのか、都市と農村交流の意味を問い直せ、消費者への農林漁業教育・農山漁村対策の最重要性、20代と30代の定住政策、人間主体を軸とした農業振興政策、「中核兼業者育成」と「生活農業論」など、徳野先生は、農の山漁村を走り回っている研究者ならではの新鮮で斬新な切り口から、昨年の「環鳥海・未来の森林(もり)シンポジウム」に参加した多くの人びとに、元氣と希望と活路を与えていただきました。

前回来町で伝え切れなかったこと、言い足りなかったこと、言い忘れたことを、再び熱く語ってくれる渾身の知的トークライブショーです。

徳野貞雄(熊本大学文学部 地域科学科 社会学教授)

1949年大阪府貝塚市出身(北九州市在住)九州大学大学院を卒業後、山口大学助手、広島県立大学助教授を経て、97年より熊本大学。「熊本市食農塾」「番頭さんの会」の世話人「ふるさと食農ほんわかネット」理事長。著書に『ムラの解体新書』『有機農業運動の展開と地域形成』ほか多数。九州・中国・四

国内農山村を駆け回るフィールド派の研究者。唾を飛ばしながらの熱弁のため、前席は要注意！

第二幕

内山節と普段着で哲学を

いま川をどう捉えるのか...「水」の思想から「流れ」の思想へ

『山里の釣りから』（岩波書店）に込められた著者のメッセージ：

在野の哲学者として利根川源流域の山村（上野村）で川釣りを楽しみ、畑を借りて野菜を作る。自然と多様に関わる山里の労働と暮らしの文化を学び、山から海へと「流れる川」を荒廃させた都市文化を考える。山里の四季を爽やかに綴りつつ現代社会を問う思索的エッセイは、教科書や受験問題に多く使われている。NPO法人「森づくりフォーラム」代表理事。

『森の列島に暮らす...森林ボランティアからの政策提言...』（コモンズ）で第3回NIRA（総合開発研究機構）大来佐武郎政策研究賞を受賞。

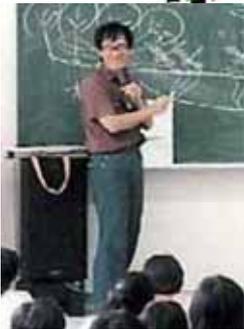


内山 節(たかし)（哲学者：自然哲学・農山村社会学）

1950年東京都生れ 現住所：東京都 著書『自然と人間の哲学』岩波書店『時間についての12章』岩波書店『自由論』岩波書店『自然と労働』農文協 『自然、労働、協同社会の理論』農文協 他

第三幕

市民型公共事業が地域を変える



水辺の自然再生事業～生物多様性の回復をめざして...

飯島博：1956年生まれ。NPO法人アサザ基金代表理事、霞ヶ浦・北浦をよくする市民連絡会議事務局長、わたらせ未来基金代表世話人、ヒシクイ保護基金代表、牛久の自然を守る会代表。専門は環境計画。中学生時代に水俣病などの公害事件を知り、自然と人間の共存について考えはじめる。霞ヶ浦再生事業「アサザプロジェクト」の企画運営、環境計画、ビオトープの企画設計、環境教育プログラムの企画運営など様々な活動を行っている。その取組は、98年版環境白書や建設白書で紹介された。第1回明日への環境賞（朝日新聞主催）、第2回日本水大賞市民

環境水俣賞など多数受賞。著書は「よみがえれアサザ咲く水辺～霞ヶ浦からの挑戦」

最終章 三つ巴トーク

講師3人が壇上に勢

コーディネーター

沢畑 亨（さわはたとおる）

1961年生れ。熊本県西合志町出身。農学修士。1年間の西武百貨店勤務、5年間のエコロジー及び、むらおこしコンサルタント自営（東南アジア諸国に頻繁に赴く）の後、全国公募された水俣市久木野ふるさとセンター・愛林館の館長に選ばれ、94年11月より水俣に暮らす。「風土・循環・自律を基本とするむらおこし」の活動を実践中。



徳野 貞雄



内山 節



飯島 博

後 援：西目町、西目町教育委員会、西目町創黨会、西目町の自然に親しむ会、オランの会、本荘市水源の森育成会、木を植える人びとの会、八塩山麓会、鳥海山にブナを植える会、九十九島の松をまもる会、秋田県森の案内人連絡協議会 緑をそだてる市民の会 緑を守る会 秋田しんせい農業協同組合、秋田県漁業協同組合、本荘由利林業後継者連絡協議会、秋田県木材産業協同組合連合会、子吉川森林保全センター協同組合、鳥海森林

保全センター協業体、本荘由利匠の会、秋田県自然観察指導員連絡協議会由利本荘支部、由利本荘青年会議所、西目ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト本荘、本荘市消費者の会、秋田いろり塾ネットワーク由利支部、秋田魁新報社、読売新聞社秋田支局、朝日新聞社秋田支局、NHK秋田放送局、